

生成AI はじめの一步

生成AIの入門的な使い方と注意点

生成AI（ジェネレーティブAI）とは？

AIを用いて クリエイティブな成果物を生み出せる



音楽



画像



動画



プログラミング



文章

学習の流れと目的

対象者と目的

対象

今後の生活の中で、生成AIに触れうる国民の方
※IT関連の専門職等のみを対象としたものではない

目的

生成AIを自身で利活用できるリテラシーを身に付けること

学習の流れ

1

生成AIとは何か？

生成AIの基礎知識を学習

2

生成AIをどのように使うか？

生成AIの活用場面や入門的な使い方を学習

3

生成AI活用にあたって注意すべきポイントは？

4つの注意点を学習

- ❗ 情報の正確性
- ❗ 情報流出
- ❗ 知的財産権の侵害
- ❗ 活用者としてのモラル

生成AIとは何か？

生成AIの定義

大量のデータから学習し、テキスト・画像・音声・動画などの新しいコンテンツを生成する人工知能技術



指示

ユーザーが質問や指示を入力
力
(プロンプト)



生成AI

インターネット上の文書な
どを
大量に学習したAIが処理



回答

文脈に沿った回答や
コンテンツを生成

生成AIの特徴



多様なコンテンツ生成

テキスト、画像、音声、動画など様々な形式のコンテンツを生成できる



自然な対話

人間のような自然な対話が可能で、文脈を理解して応答する



創造的な発想

既存のデータから学習し、新しいアイデアや表現を生み出せる



継続的な進化

新しいデータや技術によって常に進化し、性能が向上している

生成AIにまつわる変化

従来のAI



情報の検索と分析

既存のデータから情報を検索し、分析結果を提供する



特定タスクの自動化

あらかじめ定義された特定のタスクを自動的に実行する



既存コンテンツの処理

既存のコンテンツを分類・要約・翻訳する

生成AI



新しいコンテンツの創造

学習データを基に、オリジナルのテキスト・画像・音声などを生成する



自然な対話と理解

人間のような自然な対話が可能で、複雑な指示も理解できる



創造的な問題解決

新しいアイデアの提案や創造的な問題解決をサポートする

生成AIがもたらす社会変化



働き方の変革

ルーティン作業の自動化や創造的業務のサポートにより、働き方や職種が変化



教育の進化

個別最適化された学習体験や新しい教育コンテンツの創出が可能に



創造性の拡張

アイデア創出や表現活動をサポートし、人間の創造性を拡張

生成AIの用途

生成AIを使用して、様々な分野でクリエイティブな成果物を生み出すことができます



テキスト生成

文章作成、要約、翻訳、メール作成など



画像生成

イラスト作成、デザイン案、写真編集など



音声・音楽生成

音声合成、ナレーション作成、BGM作成など



動画生成

短編動画作成、アニメーション、映像編集など



プログラミング支援

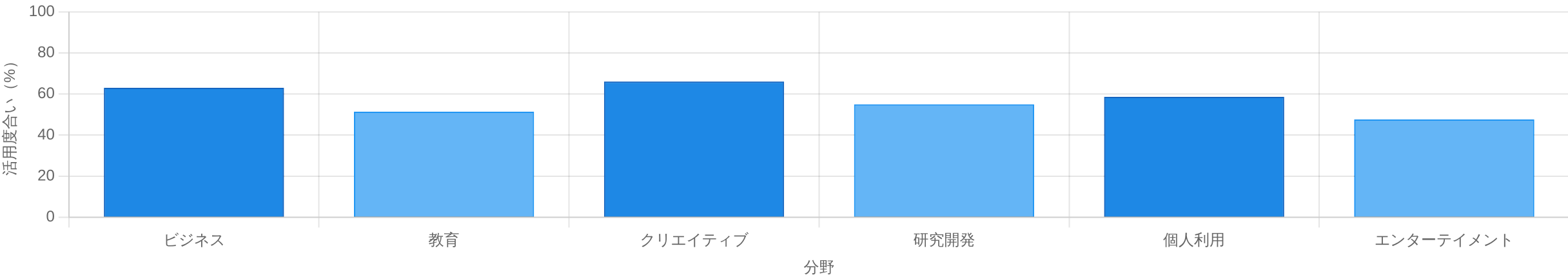
コード生成、デバッグ支援、アルゴリズム提案など



アイデア発想

ブレインストーミング、企画立案、問題解決など

生成AIの活用分野



生成AIサービスの使い方

1

チャットを入力する

質問や指示を入力フィールドに記入します

具体的な指示を与えるほど、より適切な回答が得られます



例：「生成AIとは何ですか？」

2

送信ボタンをクリック

入力した内容を送信して回答を待ちます

多くのサービスでは紙飛行機アイコンが送信ボタンとして使われています



送信ボタンをクリック

3

回答を確認する

AIが生成した回答を読み、必要に応じて追加質問をします

会話は継続的に行うことができ、前後の文脈を踏まえた回答が得られます



AIからの回答を確認

💡 効果的な使い方のポイント

- ✓ 具体的な指示を与える（何について、どのような形式で、どの程度詳しく等）
- ✓ AIに役割を与える（「あなたは〇〇の専門家です」など）
- ✓ 回答が不十分な場合は、質問を言い換えたり詳細を追加したりする
- ✓ 生成された情報は必ず自分で確認・検証する

注意点①：情報の正確性

⚠ 生成AIの出力には誤りが含まれる可能性がある

生成AIは学習データに基づいて回答を生成するため、事実と異なる情報（ハルシネーション）を出力することがあります。特に専門的な内容や最新の情報については注意が必要です。

✓ 情報の正確性を確保するためのポイント

🔍 複数の情報源で確認

生成AIの回答だけを信じず、公式サイトや信頼できる情報源で内容を確認しましょう。

🔄 質問の仕方を工夫する

同じ内容でも質問の仕方を変えたり、より詳細な情報を求めたりすることで、回答の精度を高められます。

👤 役割を与える

「あなたは〇〇の専門家です」など、AIに役割を与えることで、より専門的な回答を得られることがあります。

📅 最新情報に注意

生成AIの学習データには時期的な制限があるため、最新の情報については特に注意が必要です。

質問の工夫例

✖ 基本的な質問

「日本社会の課題について教えてください。」
→ 一般的で広範囲な回答になりがち

✓ 工夫した質問

「あなたは授業で実施するボランティア活動について考えている高校生です。日本社会の課題について教えてください。」
→ 目的や背景を伝えることで、より具体的で役立つ回答が得られる

注意点②：情報流出



生成AIに入力した情報は、サービス提供者に送信・保存される可能性があります
個人情報や機密情報を入力する際は十分注意しましょう

情報流出を防ぐために

個人情報とは

生存する個人に関する情報であって、特定の個人を識別できるもの

- 氏名、生年月日、住所など
- 顔写真などの容姿が判別できるもの
- 個人識別符号（マイナンバー、運転免許証番号など）

- ✓ **利用規約やプライバシーポリシーを確認する**
入力した情報がどのように扱われるか事前に確認しましょう
- ✓ **個人情報や機密情報は入力しない**
特に他者の個人情報は本人の同意なく入力してはいけません
- ✓ **業務利用の場合は組織のルールに従う**
企業や組織の情報セキュリティポリシーを確認しましょう

❗ 入力してはいけない情報の例

- ✗ 知人のメールアドレス一覧
- ✗ 役員会議の発言メモ
- ✗ クラス名簿を撮影した写真
- ✗ 社内の機密資料や顧客情報
- ✗ パスワードやアクセスキー

情報流出が起きた場合

個人情報保護法違反や守秘義務違反などの法的責任が生じる可能性があります

注意点③：知的財産権の侵害



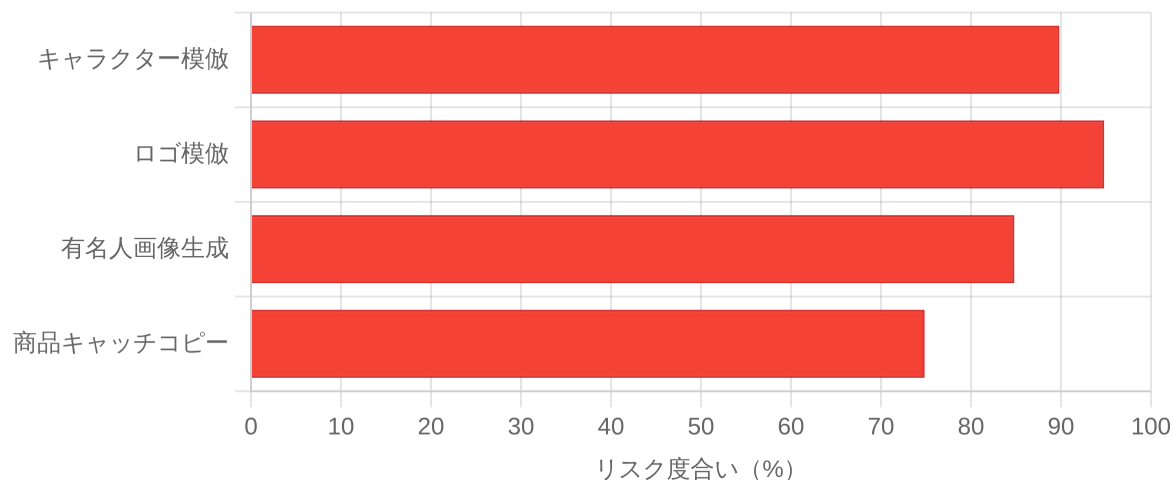
生成AIを使って他者の知的財産権を侵害しないよう注意が必要です

著作権、商標権、特許権、パブリシティ権などを侵害すると法的責任が生じる可能性があります

④ 避けるべき指示の例

- × XXのロゴに似ているロゴを作成してください
- × XXのキャラクターのイラストを描いてください
- × アイドル「XX」にそっくりの写真を生成してください
- × XXの新商品のキャッチコピーを考えてください

知的財産権侵害のリスク度合い



💡 知的財産権を侵害しないためのポイント

知的財産権とは

知的創造活動によって何かを創作したり、発見・発明したりした人に対して付与される権利

- 著作権：文芸、学術、美術、音楽などの創作物に関する権利
- 商標権：企業や商品を識別するための標識に関する権利
- 特許権：発明に関する権利
- パブリシティ権：有名人の氏名や肖像の経済的価値に関する権利

- ✓ オリジナルの作品を生成するよう指示する
「〇〇風」「〇〇に似た」などの表現を避け、独自性を持たせる

- ✓ 生成された作品の権利関係を確認する
利用規約を確認し、商用利用の可否や権利帰属を理解する

- ✓ 生成物を公開・利用する前に権利侵害がないか確認
特に商用利用の場合は専門家に相談することも検討する

注意点④：活王者としてのモラル

生成AIの出力には偏りや差別的な内容が含まれる可能性があります

生成AIは学習データに含まれる社会的バイアスを反映することがあります。活王者として適切な判断と配慮が必要です。

活王者としての責任

批判的な視点を持つ

生成AIの出力内容を鵜呑みにせず、偏りや差別的な表現がないか自分で判断する姿勢が重要です。

多様性への配慮

性別、年齢、人種、宗教などに関する固定観念や偏見を助長しないよう注意しましょう。

適切な指示の工夫

偏りを軽減するため、多様性を考慮した指示を与えることが効果的です。

生成AIの出力に対する最終的な責任は活王者にあります

偏りを軽減するための工夫

指示の工夫例

問題のある指示

「医師のイラストを生成してください」
→ 特定の性別や人種に偏った結果になる可能性

改善した指示

「様々な性別や人種の医師のイラストを生成してください」
→ 多様性を考慮した結果が得られる

不適切な利用の回避

- 他者への誹謗中傷や差別的な内容の生成
- 虚偽情報の意図的な拡散
- 悪意ある目的での利用
- 違法行為の実行や支援

継続的な学習と改善

生成AI技術や倫理的な課題は日々進化しています。最新の知識を取り入れ、より良い活用を目指しましょう。